

『適切な末梢血幹細胞採取法の確立及びその効率的な普及による非血縁者間末梢血幹細胞移植の適切な提供体制構築と、それに伴う移植成績向上に資する研究』

分担課題名：造血幹細胞移植患者手帳の改訂

研究分担者 廣瀬朝生 大阪公立大学大学院 医学研究科 血液腫瘍制御学 病院講師
後藤秀樹 北海道大学病院 輸血部 講師

研究要旨

2017年から利用されている造血細胞移植患者手帳について、実際に利用した造血幹細胞移植後患者や医療機関関係者へのアンケート調査を行い、手帳の運用状況の把握とともに、手帳の目的である移植患者の長期健康増進を図るためにニーズに合わせて造血細胞移植患者手帳の改訂を行った。

A. 研究目的

R3年度、造血細胞移植患者手帳を実際に利用した患者や医療機関へのアンケート調査を行った結果、患者では移植施設への持参は77%、かかりつけ医への持参は63%にとどまった。「手帳が役に立ったことがある」と回答したのは移植医師47%、かかりつけ医42%、看護師62%、患者47%であった。役に立った内容としては、医療者、患者ともワクチン接種に関するものが多かった。本アンケート結果を基に、造血細胞移植患者手帳を改訂し、移植施設と地域の医療機関の情報共有の質向上による患者QOLの改善を目指す。

B. 研究方法

R3年度に実施した造血細胞移植患者手帳の運用状況やニーズのアンケート調査を元に、日本造血・免疫細胞療法学会造血細胞移植患者手帳作成委員会と協働して造血細胞移植患者手帳の改訂を行った。

<倫理面への配慮>

アンケート調査は「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に則るとともに、日本造血細胞移植学会（現日本造血・免疫細胞療法学会）および大阪市立大学（現大阪公立大学）の倫理委員会の承認を得て行われた。また、各対象者へのアンケートは無記名で行った。

C. 研究結果

手帳の目的がわかるように表紙にサブタイトル「～地

域全体でのフォローアップのために～」を記載した。緊急時に必要な情報がすぐわかるように「患者さんのプロフィール」「移植施設への連絡方法」を最初のページに移動した。日本造血・免疫細胞療法学会ホームページに公開している患者さんの役に立つ情報、患者指導用リーフレットを参照できるようにURLを2次元バーコードで掲載した。移植の記録のGVHD予防に「移植後シクロフォスファミド(PTCY)」を追加した。かかりつけ医の一覧が記載できる項を追加した。患者さんの最近の状況の記載欄を修正した。アントラサイクリン蓄積量、看護師の指導内容、節目検診、がん検診の記録の項を追加した。ワクチンの項目を追加した。



日本造血・免疫細胞療法学会及び各拠点病院に印刷用のデータを配布した。

D. 考察

R3 年度に実施した造血細胞移植患者手帳のアンケート調査を元に、日本造血・免疫細胞療法学会造血細胞移植患者手帳作成委員会と協働して造血細胞移植患者手帳の改訂を行ったが、アンケートに回答したかかりつけ医は 17 人と少なく、血液内科医が半数を占めており、移植施設と血液内科以外の地域の医療機関との手帳を介した連携は容易ではないことが推測される。移植後患者は様々な疾患で受診しており、内科以外にも眼科、歯科、婦人科、皮膚科、整形外科など多くの科との連携も必要と考えられる。手帳の対象範囲については、今後のニーズに合わせて、定期的に見直す必要がある。患者へのアンケートでは、LTFU の必要性について一定の理解がされていたが、LTFU を受けていない理由として、「知らなかった・勧められていない」と回答する患者も多く、移植医療に関わるスタッフが少ない 1 割程度の施設で手帳は配布されておらず、施設、地域によって患者の移植後健康管理に差が生じないよう、LTFU の体制を整えていく必要がある。アンケートでアプリ化のニーズは高かったが、維持費などの費用的な課題、セキュリティ上の課題から今回の改訂では採用できなかった。

E. 結論

R3年度に実施した造血細胞移植患者手帳のアンケート調査を元に、日本造血・免疫細胞療法学会造血細胞移植患者手帳作成委員会と協働して造血細胞移植患者手帳の改訂を行い、拠点病院に印刷用データを配布した。

F. 健康危険情報

特になし。

G. 研究発表

【1】論文発表

1. 廣瀬朝生、中前博久、大西 康、黒澤彩子、後藤辰徳、後藤秀樹、土岐典子、橋井佳子、藤井伸治、森島聡子、日野雅之. 造血細胞移植患者手帳の運用状況と改訂の必要性に関する全国アンケート調査. 日本造血・免疫細胞療法学会雑誌 in press

【2】学会発表

1. 廣瀬朝生、康 秀男、中嶋康博、西本光孝、岡村浩史、久野雅智、高桑輝人、幕内陽介、井戸健太郎、酒徳一希、中前美佳、日野雅之、中前 博久. ATL の長期移植成績に移植法が与える影響. 第45回日本造血・免疫細胞療法学会, 2023年2月、名古屋

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定も含む）

【1】特許取得

なし

【2】実用新案登録

なし

【3】その他

なし